

平成21年 12月 第285号

大代地区コミュニティ推進協議会
(広報部)
事務局：大代地区公民館
☎364-8442

ふれあい

〈掲載目次〉

- 一通のメールから 1
- 環境悪化は地域衰退 1
- いのち輝いて
とどけこの思いをテーマに . . . 2
- 戦争と平和 2
- 時代に流されて 3

- 大代の歩み(二十一) 3
- コミュニティ
ボウリング大会 4
- 新年を祝う会開催のお知らせ . . . 4
- ふれあい短歌(望郷特集) 4
- ふれあい俳句 4

一通のメールから

大代東区 佐藤 捷逸

先日、横浜のメル友からこんなメールが届いた。金華山は島なのに、何故金華山(山)と呼ぶのか調べてください。大変な課題を頂いたと思つて調べている間に、面白いことに出会いました。人の姓について面白いことが載っていましたので紹介します。

姓の起源は、天皇が大王と名乗つていた大和時代に始まるという。東北は福島県、山形県以北、青森県を除いて北海道までは佐藤姓を名乗る家が一位であることが分かりました。

佐藤家は、藤原系であるという。平泉藤原氏は一一八九年に源頼朝に倒されているのだからそれ以前に佐藤家は広まったことになる。では何故佐藤なのか？藤原氏は嫡流が上位の貴族とされていたようです。この藤原氏の武士が地方に下がりました。藤原氏を名乗り大いに誇りにしていたようです。そのため藤原一族誇示する為藤原氏の一字藤を取つて、佐藤、斎藤、伊藤、工藤、内藤などが広まったなど記されている。又農村の有力者は、田中、下田、村居、田居などで呼ばれていたという。あり溢れた地名が名字となったと言われているのに、美田、良田、葦田が

恵田に通じるので、吉田とか明治初期に出家前に届けた名字に、南無、菩薩、釈、無着、羅漢、文殊、又荒木にはこんなことが。原野を開拓したので荒木田で読みにくいので、荒木、懇木、懇、荒起、安葵、安良城、改寄、新木、新来、新規などが全部荒木と呼ぶそうである。次に愛媛県である村長が村民に魚や野菜の名字をつけたという。平目、浜地、蕪、大根などが残っているという。

ここまで来るともう島でも山でも良い。ただ、この時代に政治をとる人がマニフェストを掲げて実行できなかったら？出鱈目(デタラメ)など末代まで出鱈目の文字がはめ込まれたと思うと、ぞろぞろとする。ついでにある地方政治家は、現代版では実行できなければずーとウソつきと呼ぶそうである。

メールの山か島かの問いに出鱈目と呼ばれたくないので調べました。金華山の名は、島及び山に冠されるとありました。所載は伴家持の歌にあるようです。

環境悪化は地域衰退

大代南区 渡辺 龍雄

昭和五十四年仙台に転勤となり、季節毎の釣りに天候さえよければマイポイントで出かけ、行く先々で近所にお裾分けする程多く釣れた。

その二、三年後に、海象の変化から桂島の浸食である。行政はテトラポットによる防止策を講ずるも一向に治まらず、今より十数年前、砂浜は完全に消え去った。

従つて、海水浴、観光、釣客が絶え、民宿の廃業、桂島そのものが忘れ去られている。

この時期を境に、河川工事による環境悪化が目立ち、魚の産卵、稚魚の育成場まで失われ、おまけに磯ヤケまで発生し魚の住処を更に悪化させ、休日釣人で賑わった地域は閑古鳥が鳴いている。

環境の成行きに任せば、ますます悪化を辿り、やがて災害の拡大により大きな被害を受けることとなります。また、地域のふるさとづくりは環境保全にあることをお忘れなく。

いのち輝いて

とどけこの思い、をテーマに

暁流仙台南支部 大代中区 本郷 京子

先日、文化センターにおいて本部チャリティ―舞踊公演に弟子共々参加し、盛況のうちにつつがなく終える事が出来ました。会の主宰者である家元にもお褒めの言葉を頂き日々の修練の積み重ねが実を結んだ一日でした。舞踊とひと口に言ってもはるか昔、猿楽、田楽といった野

性的な民衆の踊りが、やがて静かで精神的な能へと昇華し、さらに新しい民衆との生活と混じり合い、歌舞伎へと発展したと聞きます。

現在の舞踊の各流派もそうした古来の伝統を踏まえたうえで時代と人をつないでいるのだと思います。私自身半世紀近く舞踊家として充実した日々を送つてこれたのも人とのつながり以上の何ものでも有りません。

今回の本部公演でも皆様方の励ましやご支援を沢山頂き、その中であつて公民館の方々には、日頃よりきめ細かな配慮に心より感謝いたしております。公民館の役割は、練習場所を提供して下さいに止まらず、育成や地域との結びつきを綿密に担つているのだと思います。今後とも皆様方のお力添え下さいますようお願い申し上げます。

戦争と平和

大代南区 後藤 清一

私たちの最後の泣き声も途絶え、鳥たちの羽の色合いに秋の深まる気配もつかの間、暦の上ではすでに立冬も過ぎ、庭の樹木も鮮やかな紅葉も、時たま北風に一ひら二ひらと舞いおりてくる。

間もなく長く淋しい冬本番の到来だろ。今年もシベリヤ墓参りの旅も終えて

早や二ヶ月も過ぎた。お陰様で九回目の慰霊も無事済ませた。私、一応平成十九年八月まで年次を重ねて投稿してきたが、手にとつて見て頂いた複数の方から私の身内の者も抑留されバイカル湖周辺で病死の公報があつたのが八年前で、周辺とだけで皆目見当もつかない。どこの地区どこの墓地に葬られているのか関係省庁に問い合わせるが資料がなく困つてゐるとの答えで全く仕様がなない。こんな事は数多く今尚敢然と続いているのです。時は流れて何十年戦争の悲哀は何時まで続くのか、我々生還者当時を知る人達は自然に物故され、皆消えればどうなることが収容所、あの丘が墓地だとそんな判断は無理。本当に時間はないのだ。戦争は人間が人間を殺すこんな野蛮な事は何時の世代にもあつてはならない。一日も早い遺骨の収集を急いで貰いたい。遺族の方々始め我々生還者も戦後は終わったの实感が欲しい。

戦後の愚かさを次代に伝へる。

先般戦後六十四年のある記事を繰り返して読んだ。戦時中の苦難が遠い過去のものでなく現在も生きていた。長老は実戦を老婦は夫の戦死、働きながら子育て多くの人は当時の恐怖を綴っていた。筆者は平和に生まれ育つた現代の人々に戦

争の現実の愚かさをいかに伝えるべきか
悩み続けていたように思う。

時代に流されて

次回に続く

大代中区 本郷 敏郎

数ヶ月前、私は「物置を整理して」と
題し昔の書物、地図などの内容を投稿し、
皆さんにいろいろな記事を見ていただき
ました。

今回は、その中に投稿していない記事
を記したいと思います。それは隣の町仙
台市の事です。皆さんの中で、仙台市に
路面電車があつたことを知る人、又電車
に乗つたことがある人、が年々少なくな
っているのではないのでしょうか。思い出
してください。

大正十五年、市民の祝福を受け産声を
上げてから、仙台の街を走り続けていま
した。そして、長町、八幡町、北仙台、
原町へと手足を伸ばし、大きく大きく育
つていきました。市電は、「都会のシン
ボル」でもあり、通勤、通学に、買い物
に、お年寄りから子供まで安心して乗れ
る「市民の足」でした。建物や木立、川
などの風物にとけ合い、子供達の大好き
な乗り物でした。車窓から移り変わる町
並みに心を躍らせた思い出をみんなが抱
いていたのではないのでしょうか。昭和十

年には積雪一メートルのため、運行不能
となつたり、十二年には戦争にかり出さ
れた運転手に代わつて、女性運転手が後
を受け持つたりしたが、昭和三十九年、
一日の利用者が十万人をピークに市街地
の爆発的な広がりともモータリゼーション
の進む中で、その役割を次第に失つてい
きました。市民の足は市電から車に移り、
乗客は年々減つてきて、昭和五十年八月
には高速大量輸送機関として地下鉄が必
要との答申があり、翌々年には電車廃止
に関する議案が可決され、昭和五十一年
三月、とうとうお別れとなりました。今
は地下鉄、市バスが市民の足として活躍
しています。

今、環境問題、排ガス、エコ、を考え
るとき、もつと活躍してほしいと思う反
面、これも時代の流れなのかとも思いま
す。

市電廃止の同じ頃、次のようなことが
あつたのも付け加えておきましょう。仙
台市の人口六十一万人、愛宕大橋開通、
宇和島市と歴史姉妹都市に、新幹線工事
進む、仙台高校開校、食肉総合市場が誕
生、下水道の心臓部南蒲生処理場の完成
など。最後にこんな歌もありました。
覚えていますか？

運転手はきみだ しゃしょうはぼくだ

あとの四人は 電車のお客

「お乗りはお早く うごきます」

チンチン

大代の歩み（二十一）

大代南区 渡邊 巖

御船入堀も前記のような問題を周囲の
村々に醸しつづつ一七〇一八世紀とその運
用を続けて、その間にも数多い改修・開
削を繰り返して、明治を迎えたのである。

六、明治・大正期の改修

貞山運河の明治期の大改修は、野蒜と
阿武隈川を結ぶものとして県営事業で行
われた。当時の工事現場の長は前出の早
川智寛（『貞山』の命名）であつたが、
折から野蒜築港関連工事の資金問題で県
政に紛議を呼んでいた時期でもあり、工
事着工には相当の苦勞を伴つたものと思
われる。

工事は明治一六年四月、大代に貞山堀
出張所を開設し、所長達邑容吉ほか九名
の所員を配し、七月には器械工場を塩竈
に設けて蒸気機関による浚渫船その他の
諸器械の制作に当たり、翌一七年三月十
一日、第一工区（塩竈湾岸の澤から大代
まで）に着工六月には第二工区、九月に
第三、第四工区と、南に向けて着手して
いった。

当時の運河は牛生く蒲生間が水面幅一

二、六m、二五、二m、干潮下水深〇・九mに過ぎず、蒲生以南に至ってはこれよりも幅深さ共に足らず、舟航はほとんど不可能であった。これを、干潮面上の幅で一六・五m、二五、二m、河底幅で九m、一四、一m、干潮面下の水深を一・五mにするものであり、七北田川との間には海面の満・干潮に伴う水面調整のため七北田川口の南北に二つの閘門（長さ二一・六m、幅五・四m余）を設置するものであった。

七、昭和期の開発構想

明治一七年の野蒜築港失敗の後、県はこれに代わるべき候補地を調整していたが、明治三二年にその適地は塩竈との報告を受けた。しかし、県の財政状態が思わしくなく直ちに着工出来ず、大正三年に第一期工事開始、途中大正六年に県工事から当時の内務省に引継がれ昭和八年三月に終了した。 続く

コミュニテイボウリング大会

去る十一月八日（日）に多数の方の参加をいただきボウリング大会が開催されました。成績は次の通りです。

- 一位 位 結城 一志さん
- 二位 位 橋本 浩さん
- 三位 位 後藤 昌英さん
- ブービー賞 高橋 昭一さん

新年を祝う会開催のお知らせ

大代地区コミュニテイ推進協議会

会長 熱海 五郎

平成二十二年「新年を祝う会」を左記の通り開催致します。皆様お誘い合わせの上、ご出席下さいますようご案内申し上げます。

記

■日時／平成二十二年一月九日（土）

午前十一時～午後一時

■場所／大代地区公民館

■会費／千五百円

■参加申込

詳細は回覧文書をご覧ください。

十二月の回覧文書にのっているか、又は単独に回覧される文書をご覧ください（各区で違います）

■申込締切

平成二十一年十二月十九日（土）

ふれあい短歌（望郷特集）

大代西区 藤田 遊子

雪降らぬ 異郷に棲みて 半世紀

故郷恋し 父母懐かし

征きし俣 未だ還らぬ 将兵の

望郷の叫び 推して知るべし

徳川の 家名救ひし 篤姫の

望郷の心 桜島に映ゆ

松山に 澄める月影 眺めたる

越の家老の 望郷思ほゆ

多賀の地に 果てし將軍の 亡骸は

帰郷叶はで 流島哀しも

ふれあい俳句

大代西区 松浦 富男

ただならぬものを踏んだり 芒原
板で来る 角の鋭き 走りそば

孫の竿ばかり喰いつく 沙魚日和

泡立草 泡に溺れし 縛り地藏

それぞれに 命の色の 紅葉かな

笠神西区 本郷 勝子

点点と 雁夕空に 点と線

大滝の しぶき真白と 薄もみじ

錦繡の ブナの樹海や 津軽富士

森ぬけて 時雨にかかる 虹を見る

静まりて 水面に黄葉映えて

八 幡 森 季子

昼の月 飛行機雲の 行く先に

日の出前 生彩はなつ 草紅葉

職人の 屋根の口笛 冬隣

秋風や 潮に追われて 干潟去る

綿虫の 尻の重さよ 金閣寺